

はんしん あわじ だいしんさい ひょうごけんこうべし さいがい
阪神・淡路大震災を経験した兵庫県神戸市は、災害に強いまちづくりを目指して復興してきました。仙台市は復興に向けてどんなまちづくりを進めているのでしょうか。

1 神戸市の安全都市づくり

1995（平成7）年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、兵庫県神戸市にもとても大きな被害をもたらしました。神戸市は、それ以来、地震などの自然災害をはじめ、あらゆる危機から人々の命を守るために「減災防犯から始まる安全都市づくり」を目標にまちづくりを進めています。

地震に強い防火水そうやたくさんの水を地域に届けられる送水管を設置したり、緊急時に災害情報が市民に確実に届くように通信システムを整備したりしています。

また、災害時は地域の人々のつながりが大切です。そこで、市と地域住民が協力して、津波から身を守る避難訓練や津波標示板の設置を行っています。

「自助」「共助」「地域力」

～神戸市危機管理室係長（平成24年時）高田 一也さんの話～

私たちは、阪神・淡路大震災から「自助（自分の命は自分で守る）」「共助（互いに助け合う心の輪）」「地域力」という大切な学びを得ました。

神戸市には、「防災福祉コミュニティ」という組織があります。これは、災害のときだけではなく、日頃からお年寄りを見守ったり、となり近所で声をかけあったりするという目的で、震災後に作られたものです。神戸市には、191地区でコミュニティが結成され、住民が参加する行事を定期的に行うなど自主的な活動が行われるようになりました。

また、震災の体験や教訓を次の世代に伝えるために、小中学校での防災学習を充実させることも安全都市づくりにとって重要な仕事になっています。



2 仙台市の目指すまちづくり

仙台市でも、震災直後に「仙台市震災復興計画」を立てて、災害に強い新しいまちづくりを始めました。

《『減災』まちづくり～津波対策》

震災時、仙台市宮城野区と若林区は津波で大きな被害を受けました。市内沿岸部に、国や県と協力しながら、防潮堤や防災林を整備し、さらには海岸部を通る県道をかさ上げするなど、今後、起こるかもしれない津波への備えを強化しています。



かさ上げ道路予定断面（若林区）
資料提供：3がつ11にちをわすれないためにセンター

《『省エネ・新エネ』対応型まちづくり～避難所への太陽光発電などの整備》

市内の小中学校などは、災害時に地域の方々が避難する避難所に指定されています。災害により停電が発生しても、避難所として必要な電気を確保し、避難してきた方々が安心して過ごすことができるように、太陽光発電と発電した電気をたくわえるバッテリーを組み合わせた防災に対応した仕組みを導入しています。



避難所への太陽光発電などの整備

《『自立』『協働』まちづくり～人材の育成》

震災を経験して、改めて共助（互いに助け合う心の輪）の大切さが必要だということが明らかになりました。そこで、仙台市では、平成24年度から仙台市地域防災リーダー（SBL）の育成を始めました。講習を受けてSBLに認定された人たちは、それぞれの地区や町内会で自主防災マニュアルの作成や地域防災訓練の実施など、独自の防災・減災活動に取り組み始めています。

SBLは、仙台市（Sendaishi）地域（Chiiki）防災（Bousai）リーダー（Leader）の略